

## ● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）5 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

グリムスボトン（アイスランド）（図中 A）

21 日に噴火が始まり、噴煙が 20 km 以上まで上がった。噴火開始数時間後に噴火の場所から 50km 以上離れた場所で降灰がみられた。22 日午前には噴煙が 10-15km まで上がり、午後にはケフラビク空港が閉鎖された。その後噴火活動は徐々に衰退し、30 日には噴火が終了したことが確認されたが、一連の噴火で多くの航空会社がスウェーデン、ノルウェー、デンマーク及びスコットランドで経路変更や欠航を余儀なくされた。

テリカ（ニカラグア）（図中 B）

4 月から地震の増加や爆発的噴火の発生がみられ、5 月 14 日以降爆発的噴火が頻発した。5 月 18 日には爆発的噴火が 6 分間継続し、火山灰が火口縁上 2.6 km まで上がった。山腹の居住者の一部が避難した。

シベルチ（カムチャツカ、ロシア）（図中 C）

30 日～31 日の噴火による煙が 7.6 km-8.2 km まで上がり、火山灰の影響で周辺地域の多くの国際便が経路変更を行った。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

